

建築士受験の裾野広げる

資格の学校 TAC

学習の新スタンダード確立

公認会計士や情報処理技術者、社会保険労務士など幅広い分野でプロフェッショナルを養成するTAC（本社・東京都千代田区）が、11月から新たに建築士講座を開講する。豊富な教育経験に加え、国際規格に準拠した高品質の教育サービス、情報通信技術を駆使した学習環境づくりによって、建築士資格取得に向けた新しいスタンダードの確立を目指す。斎藤博明社長に、開講のねらいや講座の特徴を聞いた。



TAC社長
斎藤 博明氏

講でできる。

適正な受講料設定

また、インターネットで講義内容を視聴できるウェブ通信講座や講義の録音ファイルをパソコンや携帯音楽プレーヤーなどにダウンロードして、好きな時に聞くことができる「音声ダウンロードフォロー」など、ICTを利用した学習システムも用意している。

教室講座以外では、一方通行の受講にならないよう、電子メールによる質疑応答のほか、回数限定で教室講座に参

11月から講座開設

加でできるなど「講師や受講者とのコミュニケーションがとれる」体制をとる。

受講料は、一級建築士の学科が30万円、設計製図が15万円（教室講座）と他の専門学校と比べると低く設定している。「安からう悪からうではない。われわれが開講している多くの講座の一つとして、標準的な設定となっている」と適正な受講料であることを強調する。割引制度などを加えると、さらにリーズナブルな価格となる。

講師陣の経験、カリキュラム数などの基本的な部分についても「他の専門学校と比べて遜色ない」と自信を見せる。

1年目は300人以上

これまでの、専門学校の受講料の高さや勉強時間の確保の難しさ、建築士を目指す若者にとつての大きな障害となっていた。「忙しい受講生のためにメディアやフォロー制度を充実させ、価格もリーズナブルな設定とした。建築士受験の新しい学習のスタンダードとして定着させ、少しでも受験生の裾野を広げたい」と力を込める。

建築士講座は一級、二級が対象。1年目は一級、二級合わせて300人以上の受講者数を見込んでいる。

効率的な学習内容

「建築は日本人が才能を開花できる分野であり、安藤忠雄さんや伊東豊雄さん、隈研吾さんら才能を持つ人が、世界で活躍されている。世界に羽ばたく夢を持って、まず建築士になってほしい」。世界に通じる人材育成の思いを、建築士講座の開設に込める。

同社は、公認会計士から始まり、情報処理技術者、宅地建物取引主任者など34もの講座を展開する資格の学校。建築士講座は「もともとやりたかった。よつやくたどり着いたというのが実感」と、斎藤社長の思い入れは深い。

昨年、教育サービスの国際規格であるISO29990を取得し、国際レベルの要求を満たすなど教育サービスの総合的な品質は向上している。一方で、建築士資格分野では後発であるため、他の専門学校にはない独自色を出す必要がある。

その特色の一つが新試験制度への完全対応だ。建築士法の改正を踏まえて、過去問題や最新の出題傾向を研究し、講義や教材を組み立てた。「出題傾向を徹底的に分析して教材をつくっている」というように、効率的な学習ができるよう、ポイントを押さえた講義、教材を構築した。分野ごとに重点を絞り込むだけでなく、全体にストーリー性を持たせた講義・教材の内容で、理解のしやすさにも配慮しているという。

開講時の教室数は、東京に3校（新宿、渋谷、八重洲）と大阪に1校（梅田）と少ないが、受講者のライフスタイルを考えた学習環境づくりに注力している。社会人の受講者が多いことを踏まえ日曜日を中心に講義日を設定した。東京では講義に出られなかった場合、他教室に振り替えられるほか、DVDを使った個別ビデオ講座では、受講者の都合に応じて自由な時間に受



DVDを使った個別ビデオ講座で利用するビデオルーム